札幌市立大学
附属図書館
ニュースレター

のほほん

第12号
2019年1月

ロゴマーク　デザイン学部メディアデザインコース1期生　木村　尚史

三上　拓哉『サイニズム』

特集「知の道標」

変われないを変える方法
札幌市立大学看護学部　大学院看護学研究科　教授 ― 卯野木　健

計算哲学への誘い
札幌市立大学デザイン学部　大学院デザイン研究科　准教授 ― 藤木　淳

ロリコン、生首、ギャル男の生態？～読書を通した経験・関係の知～
札幌市立大学デザイン学部　大学院デザイン研究科　准教授 ― 丸山　洋平

ゼロの存在
札幌市立大学看護学部　講師 ―― 武冨貴久子

Googleの猫
札幌市立大学デザイン学部　大学院デザイン研究科　講師 ― 松永　康佑

一冊の本の出会いで人生は変わる
札幌市立大学看護学部　助手 ―― 出水美菜子

学生の本にまつわる話
五感読書 ―― デザイン学部3年　清家　葵
「手助けする」って何だろう？ ―― 看護学部2年　萩原　愛美

カウンターの内側からの紹介図書
札幌市立大学附属図書館　図書館専門員 ―― 平　紀子
芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 ―― 小林　奈緒
桑園キャンパス・ライブラリー司書 ―― 福士　瑠美

何のための論文検索？ ―― のほほん編集委員

芸術の森キャンパス・ライブラリー・札幌芸術の森美術館連動企画展示
『アニメーションの世界』

附属図書館 貸出・視聴ランキング

札幌市立大学
附属図書館
SAPPORO CITY UNIVERSITY
http://www.lib.scu.ac.jp/

表紙の作品について

健聴者の手話学習を誘因させるゲーム「サイニズム」の制作

札幌市立大学デザイン学部のH28年度の卒業研究において芸術工学会奨励賞を受賞した作品。

International Students Creative Award 2016、Asia Digital Art Award 2016での入賞、日刊工業新聞やFRaU(講談社)等に掲載、テレビ東京WBSで紹介される。

手話について素養が無い健聴者を対象にゲーム感覚で気軽に学習できることを目的としたエンタテインメント作品。

作者紹介

三上　拓哉（みかみ　たくや）

札幌市立大学 デザイン学部 第8期生（コンテンツデザインコース）

在学中、コンテンツデザインを学び、デジタルメディア作品の制作を行う。

制作物は国内・国際コンペティションでの複数受賞や、総務省異能vationプログラム1次審査通過、学術発表会において研究奨励賞を受賞する等、学外から高い評価を受ける。

またこれらの活動により札幌市立大学学長奨励賞を受賞。

卒業後は札幌市立大学大学院に進学し、人間の知覚特性を応用した研究・作品制作を行っている。

札幌市立大学
附属図書館
SAPPORO CITY UNIVERSITY
http://www.lib.scu.ac.jp/

編集後記

今回の特集テーマ「知の道標」いかがでしたでしょうか。人は誰もが人生の分岐点を経験し、選択を余儀なくされます。そんな時、本は知識をもって進む道を示してくれることがあります。また、本に親しむ人は、本によって救われた経験が少なからずあるかと思います。知が凝縮された本によって視野を広め、新たな知見を得ることで、自己を高めることができ、本が道標になるということを再認識するテーマとしました。力強い文章に感化され、本を読み知識を蓄える重要性を改めて感じたところです。

また、「何のための論文検索？」と題し、編集委員それぞれの研究や専門分野の視点から、論文を参照する理由について語りました。これからの学生生活、そして今後の人生の参考にもしてもらいたいと思います。

編集委員一同

札幌市立大学附属図書館ニュースレター
のほほん第12号

編　　集　札幌市立大学図書館運営会議
編集委員　松永　康佑　森　朋子
檜山　明子　伊東健太郎

発 行 日　2019年1月21日

発　　行　札幌市立大学附属図書館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
事務局　地域連携課　図書館担当
TEL.011-592-2346

制作・印刷　三浦印刷株式会社

ご感想をお聞かせください。
library@jimu.scu.ac.jp

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
R100 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用
VEGETABLE OIL INK

特集

知の道標

変われないを変える方法

札幌市立大学看護学部　大学院看護学研究科　教授
卯野木　健

筆者紹介

福岡県出身。千葉大学看護学部卒業後、救命救急センター、集中治療室で看護師として勤務。2018年４月より札幌市立大学に勤務。集中治療室での看護や集中治療を受けた患者の退院後の生活や症状に関して研究を行っている。

イラスト
デザイン学部2年
大山　ひとみ

今回、「知の道標」というお題で原稿を書かせてもらうことになった。いろいろな本から刺激は受けているとは思うのだが、はて、何にしようかと考えた。依頼を受けたのは空港だったので飛行機の中でずっと考えた。ここでロシア文学とか不条理小説が出てくると格好いいのかもしれないが、残念ながらそれらを「知の道標」という題に繋げられるだけの文章力はない。私がお話しできるのは、もっと実学的なものである。

今から６年ほど前、私は大学病院の集中治療室に看護師長として勤務を始めた。そのとき、集中治療の業界では大きな変革が起きていた。重症な患者は、今まで薬をどっぷり使って眠らせておくことが主流だったのが、どんどん覚醒させることが重要だという話になってきた。また、人工呼吸器を使っているような重症な患者でも座って、立って、そして歩くというような早期からのリハビリテーションが行われようとしていた。これらは「大規模な研究」によってその有効性が裏付けされていた。しかし、今までの慣習や考え方とは全く違うため、一般に受け入れられるには時間がかかることが容易に予想された。私達にとって、患者は眠って、寝かされていることがアタリマエだったのである。

誰かが昔、「変われるのは自分だけ」という格言じみたことを話していて、そうだなあと同意していたものだが、今回はそんなことを言っている場合ではなく、人の考えや行動を変えなければならない。それも 35 人も。そこで日頃はあまり読まないビジネス書を買い漁って見つけたのが、チップ・ハース＆ダン・ハース著の「スイッチー「変われない」を変える方法」だ。

今回の壁ーつまり行動を変えなければならない理由は、「大規模な研究によって裏付けされている」からだ。しかし、研究の成果を示したところで行動は変わらない。ひとは理性だけで動くわけではない。この本では、これらを象と象使いの比喩で例えている。

私達の感情は象であり、理性は象使いである。像にまたがって手綱をつかむ象使いは一見するとリーダーにみえる。しかし、象使いは象よりもはるかに小さい。体重６トンの象と象使いが進む方向でもめれば、負けるのは象使いだ。象使いにはまったく勝ち目はない。

誰もが「変わりたくない」と理性的に考えているわけではない。ただ、心理的には常に変化に対して受け入れたくない感情があるものである。特に集団であればなおさらそうだ。研究の成果を示して納得するのは象使いだが、結局、象が動かなければならない。さて、象が動くにはどうしたらよいのだろう。本書には、象使いにどのように方向を教えて、象にやる気を与えて、どのように道筋を定めるのか、に関して様々な例を用いて説明されている。医療関係の本ではないので、医療現場での例は少しである。また、自分の行動を変えるヒントもたくさん書いてある（私自身はあまり変えられてないかもしれない）。

さて、これらの結果、どうなったかというと、大きな変化を遂げることができた。これは、一緒に仕事をしたスタッフみんなの協力の結果であるが、この本の貢献は大きかった。

学生のみなさんも何かを変えなければならない機会は今でも、そしてこれからたくさんあると思う。そんなときに、この本はヒントになるかもしれない。特にうまくいかないなあ、と思ったときにお薦めです。きっと新しい発想が生まれ、あなたの道標になることでしょう。

書籍情報

チップ・ハース＆ダン・ハース、千葉敏生訳『スイッチ！ー「変われない」を変える方法』早川書房,2010

計算哲学への誘い

札幌市立大学デザイン学部　大学院デザイン研究科　准教授
藤木　淳

筆者紹介

人間情報デザインコース
メディア芸術が専門です。正確には専門となってしまいました。メディア芸術が好きというわけではなく、また、「メディア芸術作品を作るんだ。」「メディアアーティストになるんだ。」という意気込みも全くありませんでしたが、実験的に色々作っているうちにこの分野に関わることが多くなりました。

イラスト
デザイン学部2年
河原　美紗都

「永遠」に憧れを感じます。私は以前その「永遠」に“ずっと変わらないこと”を求めていましたが、最近は“変わり続けること”に永遠として惹かれています。そのような点において、複数のシンプルな関係性から生じる、複雑に変化する“系”を対象とする「複雑系」は、私の興味ある学術領域です。近年注目されている人工知能は複雑系と関連性が深く、その基本的な設計思想は人間の脳神経細胞ニューロンをモデルにしているそうです。人工知能の応用先は実用方面のみならず、アートの世界にも入ってきています。例えば、他界した著名な作家が〇〇を書いていたら、といった有り得ないシチュエーションのシミュレーション表現等です。複雑系には興味ある一方で、そんな人工知能を、当該分野の研究者から怒られるのを承知で言うと、私は正直好きではありませんでした。人間の脳の構成要素を模倣したら、そりゃあ脳に関連するものがでてきて普通じゃん。それを使った表現だって、出力された結果は誰によるものなのか。何かもやっとしたものがあります。何かの模倣ではないシンプルな関係性で、生命のように（可能な限り永遠に）変わり続ける表現をしたいと思いました。ここまで話すと、プログラムのランダム命令を使ったらと思う人がいるかもしれません。ほとんどのコンピュータ・プログラム言語にはランダムな値を出力する命令が用意されています。ですが、実はこの命令は真にランダムではなく周期性を伴っています。数学的に数字からは完全なランダムは作り得ないことが証明されているそうです。また、ランダム命令は window や mac などプラットフォームによって算出方法が異なっていて結果が違うのです。そういったことから、ランダム命令を使うことには抵抗があり、シンプルな複数のルールで変化表現をしたいと思いました。

試行錯誤を重ねた末、『cellroid』という作品ができました。『cellroid』はシンプルな４つのルールにより、複数の小さな円がまるで細胞組織のように全体のカタチを変えながらグルーピングしたり、ごちゃまぜになったりを繰り返す様をプログラムにより動画として出力する映像作品です。この作品を展示発表したところ、そこへ西川アサキさんという人工知能研究者が見に来てくれました。自己組織化を連想させるフライヤーの『cellroid』のグラフィックに興味を持って見に来てくれたようでしたが、西川さんの専門は人工知能ということで、私は西川さんがどうしてこの作品に興味を持ったのか疑問でした。後日、西川さんが執筆した『魂と体、脳　計算機とドゥルーズで考える心身問題』という本を読んでみました。内容はちょっと難しくて完全に理解できているか分かりませんが、ライプニッツやドゥルーズといった哲学者の考えをベースとして、経済理論等を導入した西川さん独自の視点で「意識」をコンピュータ・シミューレートする自身の試みが紹介されていました。仮説に基づき、意識という実体のない対象を探っていく。人工知能研究はニューラルネット（の延長や応用）とばかり思っていた自分が恥ずかしくなってきました。西川さんには人工知能の他にもう一つ専門がありました。哲学です。哲学というと文系で頭の中であれこれ議論を展開するイメージがありますが、西川さんの検証手段は計算です。大そうおこがましいですが、計算により自分の中の考えを外在化し表現するという点で強いシンパシーを感じたと共に、そんな西川さんに尊敬の念を抱きました。それが「計算哲学」に関心を持った私のきっかけです。

書籍情報

西川アサキ『魂と体、脳　計算機とドゥルーズで考える心身問題』講談社,2011

特集

知の道標

ロリコン、生首、ギャル男の生態？～読書を通した経験・関係の知～

札幌市立大学デザイン学部　大学院デザイン研究科　准教授
丸山　洋平

筆者紹介
自治体シンクタンクや地方大学を経て、2018年度から共通教育担当として札幌市立大学に勤務することになった。専門は人口・家族研究、およびそれらを通した政策研究。特に人口移動の経験が家族形成に与える影響を研究している。主著に『戦後日本の人口移動と家族変動』文眞堂。これまで通学・通勤してきた学校は全て最寄駅から遠かったが、札幌に来てもそれは変わらなかった。中学からずっと吹奏楽の人だったが、ここ数年は楽器を持つ機会もなくなってしまっている。

イラスト
デザイン学部2年
菊池　祥栞

“ロリコンの語源になった小説があるらしい”。経緯は忘れたが、大学院にいた頃にそのことを知った私は、興味本位でその本を読んでみることにした。ウラジミール・ナボコフ著『Lolita（ロリータ）』は文庫本の裏表紙によると、「中年男の少女への倒錯した恋を描く恋愛小説であると同時に、ミステリでありロード・ノヴェルであり、今も論争が続く文学的謎を孕む至高の存在でもある」らしい。“らしい”と書くのは、途中で読むのをやめてしまって結末を知らないからだ。少女に恋する中年男に感情移入できず、読むのが段々苦痛になってきたので最後まで読むのをあきらめた。ただ、自分が持ったことのない感情を体験した、知らない世界を見たという感覚は記憶に残っている。

自分が持ったことのない感情の体験ということで思い出すのは、ワイルドの戯曲『サロメ』だ。古代オリエントの王の娘サロメは、預言者ヨカナーンからの拒絶と侮蔑に刺激され、かえって恋を募らせて最後には彼の首を撥ね、銀の大皿に乗せられた生首に接吻をする。最後にはサロメも王の命で殺されるという結末になるが、斬首描写、首を撥ねてまで相手を自分のものにしたいという感情にショックを受け、圧倒される。信じられないと思う反面、“相手に自分が思うような反応を求める”という考えの行きつく先のように思うと、いくらかは自分事にも思えてくる。世の中のいざこざや対人関係が上手くいかないことにも、もしかしたら通じているのかもしれない。

本から知ることができるのは感情だけではない。自分が普段関わることのない集団や社会の実態などもその一つだ。現代社会には学歴、職業、趣味、国籍など、細分化された多くの属性があり、自分を特徴づけることができる一方で、自分と異なる属性を持つ人々のことがよくわからないということも起きてしまっている。例えばこんな本はどうだろうか。荒井雄介著『ギャルとギャル男の文化人類学』では、真っ黒な肌、奇抜なメイクにド派手なファッションでストリートにたむろしているようなギャル・ギャル男の姿が丹念なフィールドワークを通じて描き出されている。彼ら彼女らが所属する「イベサー」での活動の内容や、一見すると刹那的な生き方をしているようで、意外と保守的な価値観や将来に向けて努力する姿を知ることができて興味深い。実は著者がかつて渋谷のトップに上り詰めた人物であり、そうしたバックグラウンドのもとで得られた貴重な情報がまとめられている。ギャル・ギャル男に対して、今までとは異なる見方ができるようになるだろう。

知は多様である。理論知はその代表的な物だが、経験を通して得られる経験知、関係することで得られる関係知もある。国際化やネットワークの発達によって、そうした知に触れる実践の機会を持つことが現代社会では容易になってきているし、重要にもなってきている。とはいえ全てを経験し、全てと関係することは不可能であり、実践するには理論や方法論の知識も必要である。私は、こうした問題を解決する手段として読書があり、本の価値があるのではないかと思う。本というメディアが媒介しているのは書き手の持つ知識や情報であり、読書は書き手と読み手との時間も空間も超越した壮大なコミュニケーションと考えてみてはどうだろうか。書き手からの一方的な情報提供に見えて、読み手の持つ知識に応じて得られるもの、感じるものが異なってくる双方向的なやり取りでもある。そこから得られるものは知らないことを知るという経験を通した経験知であり、書き手や書き手が提供する知識・情報との新しい関係の模索から生まれる関係知であり、理論・方法論といった理論知である。数百年前の小説も海外の文献も容易に手に入るわけだし、それらの書き手とのコミュニケーションができると考えれば、本を読むモチベーションになるのではないだろうか。

実践するからといって何も持たずに部屋の外に行けば上手くいくというわけでもない。まずは落ち着いて本を読んで、自分の知らない感情や考え方、実践の方法論などに触れてみるのはどうだろうか（読みたいところだけ読んだっていいわけだし）。それこそが新しい知を探求するための道標になるはずであると思う。

書籍情報
ナボコフ著，若島正訳『ロリータ』新潮文庫，2006
ワイルド作，福田恆存訳『サロメ』岩波書店，2000
荒井雄介『ギャルとギャル男の文化人類学』新潮社，2009

ゼロの存在

札幌市立大学看護学部　講師
武冨　貴久子

筆者紹介
2018年4月より現職。医療現場や研究で得た経験を学部教育に還元できること、学生と共に学ぶことを目指しています。九州出身。北海道生活7年目で北国生活を満喫中。南北文化の違いを楽しんでいます。

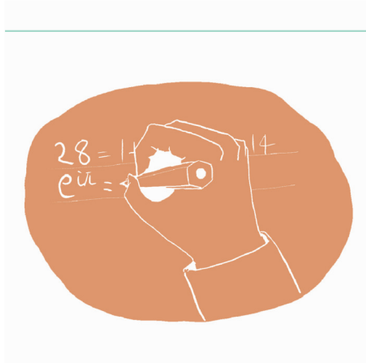

イラスト
デザイン学部2年
野崎　鹿苑

読書は、ある本との出会いと読む時機が引き合わされた貴重な機会です。小説の場合、自分の過去には起きなかったできごとを追体験し、ことばで描写された風景を空想し、物事の意味を吟味し、主人公の性格や他の登場人物との関係性を想像し展開を楽しむことができます。ストーリーがどのように終結するか、とても翌日に持ち越せないので私は一気に読み終える派です。

小川洋子氏の小説『博士の愛した数式』は、80分しか記憶がもたない数学博士のもとに、家政婦としてお世話に通うことになった「わたし」と10歳の息子との優しい交流を描いた物語です。博士は、「わたし」の息子を頭のてっぺんが平らなのが√に似ていると「ルート」と愛称で呼びます。27歳の時の交通事故でそれ以降の記憶が途絶えた「博士」、未婚の母である「わたし」、そして父を知らない10歳の「ルート」というそれぞれに抱えるものをもつ三人。博士が忘れるということに気づかないですむよう、博士とわたしとルートの会話は数学に関すること。さまざまな数字や数式を通したやりとりや、会話をとおして三人の特別な関係が築かれてゆきます。

どんな数字でも嫌がらずに自分の中にかくまう寛大な記号のルート、1と自分自身以外では割り切れない素数、このような数学に関することばが物語に意味を与えてゆきます。そして、友愛数、完全数、双子素数、三角数、オイラーの定式など難しい数学の定理や概念も、博士がわたしやルートに教える形で平易にそして、数字や数式の美しさも加えられ物語のなかで生きる仕掛けとなっています。博士の好きな素数は繰り返し登場し、そしてクライマックスに0が登場します。

古代ギリシャの数学者たちは皆、何もないものを教える必要などないと考えていた。無いんだから数字で書き表わすことも不可能だ。このもっともな論理をひっくり返した人々がいたのだよ。無を数字で表現したんだ。非存在を存在させた。（中略）最小の自然数1から1だけ小さい数、それが0だ。

この部分を読んだとき、わたしの頭の中のささやかな数学の知識にパラダイムシフトが起きた気がしました。これまで蓄積していた理解がパタパタと塗りかえられ、0から出発する数字の距離、算術平均の意味、標準偏差、などすべてが「0があるから成立する」のだと腑に落ちた瞬間でした。

これまで「0」について、その意味を言葉で意識したことはありませんでした。何も無いことを示すことで、有るものが際立つ。このことは、1回限りの事象を相手にするような技術といわれる医療現場のケアや熟達者が蓄積し言葉では伝えにくいとされる暗黙知、これらを初学者に伝えることが可能になるかもしれない、という意味に置き換えることができそうだという点においても心に残る1冊でした。

本は結晶化された知といわれ、読書という経験を通して読者の知の転換が起きることも多いと思います。これまでにもっていた知識を違う形としてとらえ直すことはひとつの学びの形です。そしてそれは「知とは本質を知ること」への道標となるかもしれません。

私はまた次のゼロとの出会いを楽しみにしたいと思います。

書籍情報
金井壽宏，楠見孝編『実践知』有斐閣，2012
中村雄二郎『臨床の知とは何か』岩波書店，1992
小川洋子『博士の愛した数式』新潮社，2003

特集

知の道標

Googleの猫

札幌市立大学デザイン学部　大学院デザイン研究科　講師
松永　康佑

筆者紹介
横浜出身。九州大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻博士後期課程修了、博士（芸術工学）。CG、インタラクティブアート分野に興味があり、最近になってフィジカルコンピューティングを始めた。HPC分野にも興味がある。

イラスト
デザイン学部3年
齋藤　直希

Google の猫をご存知でしょうか。

2000 年当時、学部生だった私は、毎晩ネットワーフィンばかりしていました。欲しい情報を検索するのですが、検索エンジンといえば yahoo や goo ぐらいなものでした。これらのサイトの検索結果は満足のいくものではなかったのですが、それが普通と思って使っていました。そこへ、Google という検索エンジンが出たというので使ってみたら、驚くべき精度で、欲しい情報が載っているサイトを的確に教えてくれました。ネット上の膨大なデータから、必要とする情報がどこにあるか、瞬時に判断し提示するアルゴリズムは他に類を見ないものでした。

ググるという言葉まで生み出した Google が 2012 年に発表した研究に登場するのが冒頭の猫です。この猫は Google の人工知能研究によって、生成された 1 枚の画像です。画像にはモヤモヤした猫の顔らしきものが描かれており、これが Google の人工知能が学習した猫の概念を画像として出力したものでした。人が見ても、おぼろげに猫の顔っぽく見えることが面白いところです。これが、後に世間をにぎわせるディープラーニングの成果を示すきっかけになりました。

人間の脳にはニューロン（細胞）が 1000 億、シナプス（接続）が 150 兆あります。一つ一つは非常に単純な仕組みではあるものの、全体では複雑な回路を形成して脳の機能を形成しています。人が生を受けてから、何年、何十年かけて、この複雑な回路は、環境に応じて変化しながら構築されていきます。コンピュータを何台も並べて、この過程を大規模に計算したのが Google の研究の特徴とも言えます。

Google の研究について間違いを恐れずに端的に説明するならば、次のように言えます。①非常にたくさんの画像を使って、人間が教えることなしに、さまざまな対象の特徴を学習させる。②学習結果に猫画像を見せ、反応する回路を見つける。③反応する回路から、逆に画像を生成すると、猫っぽい画像が得られる。この結果が、Google の人工知能が猫の概念を理解した、と話題になりました。

日本の人工知能研究の第一人者である松尾豊氏の話によれば、コンピュータが物事を認識する能力を手に入れようとしている今がちょうどカンブリア大爆発に当たる可能性を指摘しています。アンドリューパーカー著の「眼の誕生」ではカンブリア大爆発のきっかけとして、眼つまり、光受容体の登場について語られています。停滞していた生物の進化が、何かの拍子に一気に進む。そんな可能性を Google の研究成果は含んでいるという指摘です。

今、ネットは、あらゆる情報の海となり、言語・画像・映像・音声にあふれかえっています。また、カメラは小型化し、ほぼすべてのスマホやノート PC に搭載されるようになりました。これらはすべて、人工知能の学習対象となり、眼や耳となる可能性があります。

人工知能研究に次のブレークスルーが起きたとき、人にはとても真似できない学習速度が達成され、その学習結果に基づく正確な判断や予測に支えられる社会がやってくるといわれています。その時、自分はサービスを享受するだけでなく、サービスを提案・提供する側でもありたいと考えています。人工知能そのものの研究は困難ですが、それを利用する術は、提供されつつあり、専門家でなくても新しい未来を創造することは十分可能と思います。

Google のビジョンは「世界中の情報を体系化し、アクセス可能で有益なものにする」です。情報を整理して体系化した結果、人工知能の研究成果が生まれました。当初 Google がなぜ人工知能研究？と思いましたが、ビジョンを振り返ってみれば、必然的とうなづけます。

「知」とは体系化された情報の塊か。では「知能」とは何か。十分に体系化した知の集合から、知能が生まれる可能性はあるか。知能を生み出すためのアルゴリズムとはどんなもので、どれほどの計算量を要するのか。知能を生み出した結果、人の頭脳労働は必要なくなるのか。膨大な計算の果てに、感情や直感は生じるのか。脳の複製による不老不死は可能か。たくさん疑問が沸いてきますが、未来を「知」りたいという欲求が私の根底にはあるのです。

書籍情報
アンドリュー・パーカー『眼の誕生』草思社 ,2006
松尾豊『人工知能は人間を超えるか』KADOKAWA/ 中経出版 ,2015

一冊の本の出会いで人生は変わる

札幌市立大学看護学部　助手
出水　美菜子

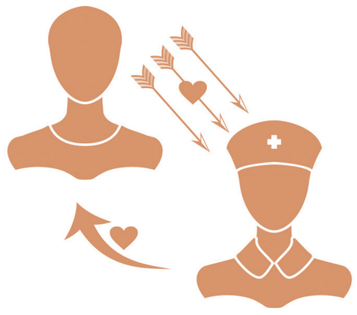

イラスト
デザイン学部2年
河原　美紗都

筆者紹介
看護師として道内の精神科病棟などで勤務。日本赤十字北海道看護大学の成人・老年看護学領域で助手として勤務した後、保健師として健診センター勤務。2018年本学に着任。現在は、精神看護学におけるシミュレーション教育の効果についての研究を行っている。

「知の道標」というテーマをいただき、私が最初に思い浮かんだ本は、この「手紙屋」である。タイトルにさせてもらった「一冊の本の出会いで人生は変わる」。この言葉は、著者である喜多川泰さんの言葉を引用したものである。

この本に出会ったのは 10 年程前（今思えば、出版されて間もない頃だったようだ）、精神科病棟で看護師として勤務していた私は、ある女性患者との関わりで悩んでいた。私の顔を見れば暴言の嵐、夜勤で人員が少ない時にも全く関わることができず、次第に私の中にも陰性感情が生まれ、その患者と向き合う気力が無くなっていた。そんな悩みをある精神科医に打ち明けた時、「なんでもいいから本を読んでごらん。専門書でなくていい。勉強になりそうな本でなくていい。自分がふと興味を持った本。その本に、きっと答えが書いてあるよ。」と言われたのだ。

そんな時に出会ったのがこの本である。本の帯には「一冊の本の出会いで人生は変わる」と書かれていた。他に、進学・転職に悩んでいるすべての人へ、というメッセージも入っていたが、書かれているのは「自分の人生をどう生きるか」ということだ。主人公である就活中の大学生・諒太は、あるブックカフェで見つけた広告から、「手紙屋」という正体不明の人物と手紙のやりとりを始める。そこで物事の考え方、価値観、人生について考えるヒントを掴んでいく。「手紙屋」は手紙で生計を立てているため、主人公・諒太は一体どれだけのお金を取られるのかと心配するが、手紙屋はそこで「物々交換」について話をする。手紙屋は、普段私達がしている行為を、「相手が持っているものの中で自分が欲しいものと、自分が持っているものの中で相手が欲しがるものを、お互いがちょうどいいと思う量で交換している」と説明した。つまり、お金も単なるひとつの方法であり、欲しいもの、自分が与えられるものはお金だけでなく、もっと他にも与えられるものがあるという考え方だ。手紙屋が提供するのは手紙を通した「言葉」、諒太がその手紙の価値がチョコレート 1 枚だと思えば、それを有難く頂戴すると手紙屋は言った。

この本を読み終え、私が関わりたくないと思っていた患者に自分が提供していたのは「陰性感情」であったと痛感した。相手から「負」の信号しか受け取れず、自分も「負」の信号を発信していたのだ。簡単な事ではなかったが、少しずつ相手から受け取る違う信号を見つけ、それを伝え、根気強く関わった。するとある時、その患者が私と一緒に外出希望を申し出た。2 人きりになった時、「色々ひどい事を言ったのを覚えている。それでも優しくしてくれてありがとう。（私の異動が決まっていたため）会えなくなるの、寂しいと思っています。」という言葉をくれた。私は感謝の言葉を返し、物々交換を実感した。

私にとって、まさに「一冊の本の出会いで人生が変わった」と思う本であり、「道標」であった。少しだけ不思議な体験をした気分でもある本だが、どの本にもそんな「知」が存在していることを忘れず、探求し続けていきたいと思う。

私はこの本をきっかけに、著者である喜多川泰さんの講演会に足を運ぶようになった。自分自身の価値観が一冊の本によって変わり、その後の人間関係も様々な場面で好転した実感があり、本人の言葉をもっと聞いてみたいと思ったためである。そこで印象に残っているのが「自分に合った金棒を見つける」こと。一寸法師は針一本で金棒を持った鬼に勝った。もし一寸法師が鬼と同じ金棒を持っていたら？扱うこともできず、まず勝ち目はないだろう。考えてみれば当たり前のことかも知れないが、自分に合った金棒は必ずあり、それは人とは違うということ。人と違うことを恐れずに、自分に合った金棒を自信を持って担いでいきたい。戦う相手は、きっと自分自身なのだろう。

書籍情報
喜多川　泰『「手紙屋」～僕の就職活動を変えた十通の手紙～』ディスカヴァー・トゥエンティワン ,2007

学生の本にまつわる話

五感読書

札幌市立大学　デザイン学部　３年
清家　葵

イラスト
デザイン学部3年
齋藤　直希

重さ、表紙の質感、紙の厚さ、インクの匂い。見た目の感じや内容の他にも本の印象を決めるものはたくさんある。私にとっての本はそういう、感覚を楽しませる為のものである。

小学校の授業で詩に出会って言葉の響きの面白さを知ってから、言葉の並びが美しくスラスラと自分の中に入ってくる文章の本ばかりがお気に入りになった。特に擬態語・擬音語に特別の気持ちがある。ざあざあ、ぱらぱら、ぽつぽつ、雨の音一つとっても数多の表現があるし、ある表現は今日の雨のためだけのものかもしれない。それはとても贅沢で特別なもののように感じられた。キラキラしたものが大好きなのだが、擬態語・擬音語はその動きや態度に、それが倫理的に悪とされるものでも、そんなことは関係なく、キラキラのように無条件の単純な美しさを持たせてしまうものであると思う。それでいてびっくりするくらい現実的なのである。そういうギャップに魅せられたのだ。

そんな擬態語・擬音語が独特で面白く、文章が美しいのが中勘助の「銀の匙」である。作者の幼少期を描いた自伝的小説で、全ての出来事がみずみずしく、無垢な美しさに包まれている。擬態語・擬音語が独特でいてぴたっとはまり、「ひゅひゅい」と柔い音を出す笙の笛「ちゃらん　ちゃらん」と鈴の音が聞こえる、鯉の滝登りの浴衣を着た飴屋の男が「うどどんどん」と太鼓をたたきながら、百合の雄蕊の頭に「こっとりと」ついてる焦げ色の花粉、など口に出していってみたくなる。明治二十年代の東京が主な舞台のため街の様子は共感するところはあまりないが、植物にかんする話のところはきゅうり、へちま、たけのこなどの馴染みのあるものが面白く描かれていて新鮮な共感がある。銀の匙に出会ったきっかけは中学三年生の夏の読書感想文の宿題だった。その頃は感想を書くには難しくて長あいあらすじになってしまったが、文学的にも優れた作品らしい。まだ熟れていない白っぽい桃を見ると思い出す作品だ。

果実といえば、梶井基次郎の「檸檬」がある。心の中のムズムズして何をするでもないがじっとしていられない感じ、果物屋の描写、檸檬を鼻に持っていって嗅いだときの思考の移り変わりが好きだ。頭の中の思考の遷移を文字にするのってなんだか野暮ったくなってしまってうまくできないのだが梶井基次郎のそれはなんだかわくわくして読める。

「檸檬」もいいが「冬の日」の中に格別の一段落がある。

「冬になって尭の肺は疼んだ。落葉が降り溜っている井戸端の漆喰へ、洗面のとき吐く痰は、黄緑色からにぶい血の色を出すようになり、時にそれは驚くほど鮮やかな紅に冴えた。尭が間借二階の四畳半で床を離れる時分には、主婦の朝の洗濯は夙うに済んでいて、漆喰は乾いてしまっている。その上へ落ちた痰は水をかけても離れない。尭は金魚の仔でもつまむようにしてそれを土管の口へ持って行くのである。彼は血の痰を見てももうなんの刺戟でもなくなっていた。が、冷澄な空気の底に冴え冴えとした一塊の彩りは、何故かいつもじっと凝視めずにはいられなかった。」

これは一の部の４段落目なのだが、この部分に物凄い感動を覚え、何度も読み返している。読む度に目を細めてため息をついてしまう感じである。二十ページほどの短編であるが、実を言うとこの段落以外は全く覚えておらず読破もしていない。ぜひこれを紙の上に乗っている活字で読んでみてほしい。痰を金魚の子をつまむように持つなんて、きったないと思って触れる面を最小限にしようとやっている動作がなんと美しく感じることか！血の混じった痰を冬の朝に吐いてみたい。

「冬の日」は古本屋で「檸檬」を読もうと買った短編集に入っていて、一月半ばの寒い日に布団から雪の降り積もる外を見ながら読んだ。本というのは映像よりも自分の中に奥深くまで入ってきて、記憶に結び付けられている。音楽を聞いたときの感覚に近い。内容を楽しむのも一つだが、感覚で楽しむ読書は自分に寄り添ってくれ、必要なときに顔をのぞかせてくれる一文に出会える、素敵な本の読み方だと思う。

書籍情報

中勘助『銀の匙』　角川文庫 , 1988
梶井基次郎『檸檬・冬の日』　岩波文庫 , 1954

「手助けする」って何だろう？

札幌市立大学　看護学部　2年
萩原　愛美

イラスト
デザイン学部2年
菊池　祥栞

「なにか、わたしにできることは？」という絵本があります。毎朝おじさんは新聞のふるえあがるような記事を読んでは、「なにか、わたしにできることは？」と考えを巡らせますが答えが出ません。何をしていても新聞の記事を忘れられず、不安でたまらなくなってしまいます。そんなある時ふと「なにか、わたしにできることは？」と口に出して呟いてみるとそれを耳にした下の階の住人や近所の奥さん、公園でお腹を空かせたご老人から思わぬ手助けを求められました。おじさんは気が付いていなかっただけで手助けを求めている人は身近に大勢いて、おじさんにできることはたくさんあって、彼らの手助けをすることでおじさんは不安が溶かされていくのを感じるのでした。偶然タイトルが目について出会った絵本でしたが、不安を感じ、自分に何かできないかと悶々とするおじさんの姿がどうも自分と重なって見ました。

私は小学生の頃タイに住んでいたため、道端で物乞いをする人々を見ては「私に何かできないか」と考えてきました。それがきっかけで私は発展途上国で働く看護師を目指していますが、今もおじさんのように不安でたまらなくなる時があります。夜柔らかいベッドに入る時、温かいお風呂につかる時、冷たく硬いアスファルトで眠りにつく発展途上国のストリートチルドレンを思うとどうしようもない不安に駆られます。将来発展途上国で医療活動をするにしても、今現在苦しんでいる彼らのためにできることは何かないのか、という思いが疼きます。

しかし一度立ち止まって考えてみると私は発展途上国の人々に何かできることはないか、と考えるばかりでとても近くで困っている人を見落としがちです。例えば昨日とは違う友人の顔色、街でベビーカーを押す疲れた様子のお母さん、私はそういった人々に気が付いて声をかけることができているでしょうか。できる日もあるでしょう。しかし忙しい時や他に感心が向いている時は何となく「大丈夫だろう」と勝手に判断してしまうこと、さらには気が付くことさえできないこともあります。私の何かできることはないかという感情は身近な人には向けられにくい限定的かつその時々のよって影響を受ける一過性のものになってしまっていると感じます。

また、私はだれかの手助けをする時恥ずかしながら「助けてあげている」と思い上がってしまうことがあると感じます。物語の中でおじさんは手助けをすることで不安が解消されることを感じたように、相手の手助けをすることは結局自分のためにもなっています。だれかの役に立っている、役に立とうとしていると思うことで自分を肯定的に捉えることができますし、「ありがとう」とお礼を言われた際はそれだけで嬉しくなります。ある素敵な看護師さんが教えてくれた言葉があります。それは、こっそりやった良いことも悪いことも、見られている、というものです。そして見ているのは神様でも誰か第三者でもなく自分自身です。自分で自分の価値を下げる必要も、自分のことを嫌いになる必要もありませんから自分が本当にいいと思う行動をしましょう、とその人は話していました。良い手助けをしたことも自分自身が見ています。そのことが自分に自信を与え、自分のことを少し好きにさせてくれます。だからこそ私はそんな大切な「手助け」をさせてもらえることに思い上がらずに感謝し、「私に何か手助けさせていただけることはありますか？」といった姿勢でいたいです。

「なにか、わたしにできることは？」を読んで、おじさんのようにもっと身の回りに目を向け、小さな変化に気が付き、喜んで手助けを行えるようになりたいと感じました。そのため、今の私にとっておじさんの姿は１つの道標です。長々と私個人の行動を省みる場となってしまいましたが、このように考え、行動することで周りの人々も自分も今より少しだけ幸せな気持ちになれると私は考えています。

書籍情報

ホセ・カンパナーリ文 , シスース・シスネロス絵 , 寺田真理子訳『なにか、わたしにできることは？』西村書店 ,2011

図書館の旅

札幌市立大学附属図書館　図書館専門員
平　紀子

イラスト
デザイン学部2年
大山　ひとみ

大学図書館では印刷学科を主とする伝統的な図書館と電子的機能をもつハイブリッド型から電子図書館、さらにAIを導入した図書館がみられるようになりました。館内に革新的学修スペースを設け、AIの支援によって学修者の主体的な学びが深化した等、次世代型図書館が実現したとの報告が出ています。「知識を創造する図書館」は限りなく可能性を広げ、利用者の行動にも大きな変化がみられる日が近づいているようです。

さて、情報収集のためにインターネットの利用は欠かせないものですが、情報社会にあって、私たちは玉石混交の情報の中から必要な情報を選び出すリテラシーが求められます。その背景には情報に対する自己責任があります。また、インターネットを通して情報入手を行う機会が多くなると、必要な全ての情報が入手できると思いがちですが、情報の全てがデジタル化されたわけではありません。アレキサンドリア時代に遡らなくとも、人類の長い時代上でインターネットが登場したのは1990年代前半のことですから、インターネットに比べ、図書など紙による情報の方が遥かに多いということがわかります。

図書館が提供しているデータベースのPuBMedや医中誌Webについて、サービス開始年からの収録データが国内外の医学関係情報の全てだと勘違いをしている、また、Index Medicus、医学中央雑誌など冊子体の二次資料の存在を認識していない利用者も少なくないのかもしれません。過去の研究者が冊子体の二次資料を使い膨大な時間を要して論文生産に努めてきた歴史は忘れてはならないものです。

ここからは少し私の好きな旅行のお話しにおつき合いください。

旅行に出かけると旅先にある大学図書館や公共図書館を訪ね、自身の専門領域である地域の医療情報に関するコミュニケーションを図書館員とすることが旅をさらに充実したものにしてくれます。過去にはニューヨーク、ワシントンDC、ロスアンゼルス、ロンドン、ローマ、ミラノなどを廻りました。ローマでは、噴水から流れる水を飲むと頭が良くなるとされる「本の噴水」も見に行き、人々が本に親しんできた歴史を感じました。2016年にはメルボルンに出かけました。まず訪れたメルボルン大学は、オーストラリア連邦ビクトリア州メルボルンに所在する州立総合大学です。1853年に設立され、2005年5月に創立150周年を迎えたメルボルン大学は、各種の世界大学ランキングで常に最優秀な大学として評価される世界有数の名門大学です。館内にあるMedical History Museumには、医療の歴史がわかる資料と共に、器具、標本が展示保管され一般に公開されています。

次に訪れたビクトリア州立図書館は、トリップアドバイザーの「死ぬまでに行きたい世界の図書館15」に選ばれた、オーストラリア最古の美しい図書館です。メルボルン駅近くに立地し、200万冊の蔵書を誇り、創始者ジョン・バットマンとジョン・パスコー・フォークナーの日誌、ジェイムズ・クック船長の手記、ネッド・ケリーの鎧などを所蔵しています。2階のレファレンスカウンターには、表情豊かなベテランのライブラリアンが利用者からの質問を待ち受けており、やはり西洋のレファレンサーの存在は偉大に感じます。放射状に広がった閲覧席には知的空間の落ち着きを感じ、思わず図書館利用登録証を作りたくなります。彫刻や絵画が配置された館内には芸術文化と歴史が融合され知の象徴のような趣がありました。

一方、わが国の公共図書館の状況を見ると、貸出数は全国的に伸び悩み、地方自治体の厳しい財政状況を反映して年間受入図書冊数も減少しています。しかし、最近は地域の交流拠点として、コミュニケーションエリアとしての機能も兼ねるところが多くみられます。今年10月札幌中心部に「さっぽろ創生スクウェア」が完成し、この施設の中に札幌市図書・情報館がオープンしました。課題解決型の図書館をコンセプトにしており、分野は限られますがデータベースも整備されています。カフェと一体化した開放的な空間で市民の情報へのアクセス、交流を担う機能も兼ね備えているようです。将来は、札幌市立の大学図書館と公共図書館が連携し、市民に向けた情報提供機能の向上を、多いに期待したいと思います。

図書館では一次資料や二次資料からの的確な情報入手方法、入手した情報の質の評価など、司書による情報提供サービスがとても重要です。そこで、利用者が図書館のレファレンス機能を中心に図書館を活用するために書かれた「図書館に訊け！」は是非お読みいただきたい一冊です。

書籍情報

井上真琴『図書館に訊け！』ちくま新書,2004
(芸森 文庫新書 080||chi||486)

『ペンギン・ハイウェイ』

森見登美彦著 角川書店, 2010.（芸術の森 2F 一般図書 913.6||Mor）
（桑園 一般図書 913.6||Mor）

イラスト
デザイン学部2年
野崎　鹿苑

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書
小林　奈緒

皆さんは子どもの頃に、冒険に出かけたことはあるでしょうか。学校の帰り道に、いつもと違う道を探して泥だらけになったり、友達と電車に乗って別の町に行ってみたり。世界は広く、不思議なことで溢れていて、毎日が大冒険だったように思います。

本書は、そんな幼い頃の好奇心を思い出させてくれる1冊です。勉強熱心で、ノートに日々の研究記録を綴る小学4年生の「アオヤマくん」は、ある日、登校中に大量のペンギン達に遭遇します。なぜ町に突然ペンギンが現れたのか？クラスメイトや不思議な力を持ったお姉さんと共に町の中を冒険し、真相を探る物語です。この作品は主人公「アオヤマくん」の、真面目でまっすぐな性格や、物事に動じない論理的な口調がとても魅力的です。一見、不思議な現象が次々と起こるファンタジーな世界に思えますが、少年の冷静で説得力のある口調から、私たちの日常のすぐそばで起きてもおかしくない出来事なのではと思えてきます。物語は小学生の子どもたちを中心に進んでいきますが、決して子どもだけが楽しめる作品ではありません。アオヤマくんの「他人に負けるのは恥ずかしいことではないが、昨日の自分に負けるのは恥ずかしいことだ。一日一日、ぼくは世界について学んで、昨日の自分よりもえらくなる」という言葉には、少年が自身と向き合い成長する前向きさを感じます。同時に、他者と比べ自信を無くしたり、日々の生活を淡々と過ごす自分の生き方についても考えさせられます。

大人になるにつれて、私たちは現実を知ります。世界を見渡せると思っていた丘の上の景色は、自分の住む町のほんの一部でしかないこと。教科書に載るような偉人になるのはとても困難であること。大人になるのはあっという間で、想像していたよりもずっと、不自由であること。しかし少年の、未来は明るく、大人になればどんなことでもできると信じる姿は、忘れていた遠い昔の記憶を思い出させてくれます。何気ない日常の中に、発見や感動があることを、改めて気がつかせてくれる1冊。皆さんも子どもの頃にタイムスリップして、「アオヤマくん」と一緒に冒険をしてみませんか。

『世界一やさしい！おくすり図鑑』

池上文雄監修；明野みるイラスト 新星出版社, 2017.（桑園 一般図書 499.1||Sek）

桑園キャンパス･ライブラリー司書
福士　瑠美

処方箋を提出し調剤してもらった薬の効能をどれだけ理解していますか？カタカナとアルファベットに弱い私は薬剤師さんから受けた説明を帰宅するまでに忘れてしまいます。薬と同封されている説明書は一体どれだけの人が目を通しているのでしょう。受けた説明を思い返してやっと理解出来る内容と感じます。説明書であるなら誰にとっても分かりやすくあるべきではないでしょうか？

今回ご紹介する『世界一やさしい！おくすり図鑑』では様々な薬がキャラクター化されその効用についてまとめられています。可愛い表紙に侮ることなかれ、ページの見やすさにも配慮されています。症状別に目次があり欲しい情報が見つけやすく、時間が惜しい場合はマーカー箇所と4コマ漫画にさっと目を通すだけでも薬の知識が得られます。残念ながらカタカナとアルファベットを避けては通れませんが、薬の効能に合わせて外見や性格が異なる可愛いキャラクター達のおかげで楽しく読み進める事が出来ます。

物事を説明する際にこのキャラクター化という手法はとても効果的なものだと思います。薬に限らず、説明書と言われて端々にまで活字を並べた用紙や冊子をイメージする方は少なくないでしょう。このように、日々の中にはより良い生活へのタネが数多く眠っているように思います。ここで、現代社会に対して高くアンテナを張る看護学部生と豊かな発想力を持つデザイン学部生が協力したなら、新たな可能性を生み出せるのではないでしょうか。この書評を読んだ一人でも多くの学生にとって、より良い生活の可能性を見つけるきっかけとなったなら幸いです。

何のための論文検索？

のほほん編集委員　**松永　康佑、森　朋子、檜山　明子、伊東　健太郎**

次の文は一流の研究者について語られたお話です。「論文執筆の際、千件の論文にあたり、そのうち百件の論文の内容をよく読み、そのうち十件の論文がその研究に関係する重要な論文である。」なぜ、こんなにも文献をあたる必要があるのでしょうか。

「車輪の再発明」こんな言葉を、よくIT分野で耳にします。意味は、「既によく知られた技術や手法を知らずに、同じものを作ること」を指し、無駄であることを意味します。これが個人の勉強であればいいのですが、研究においては新規性が問われます。つまり、どこかの誰かがすでに行った研究と同じ研究をしても、誰も認めてくれません。既存の研究と比べて、なにが新しいのか、どこに独自性があるのかが、常に問われます。取り組もうとしている分野には、それぞれの研究の歴史があり、長年、その分野に身を置いていれば、常識的な話題であっても、若い大学生にとっては、知らないことだらけです。おもいつきだけで研究を始めるひとを見かけます。それ自体は決して悪いことではないですが、おもいつきだけで研究を始めても、車輪の再発明になりかねません。自分が取り組もうとしている分野について、先人らが何を行ってきて、自分はそこに何を＋αしようとしているのか、知る必要があります。以降では、いくつかの分野について、事例を交えながら話をします。

■デザイン学部　人間情報デザインコース

基礎技術とその応用について話をします。例として進化の激しいWeb技術について考えてみます。インターネットが日本に普及し始めたのは1996年頃からで、一般家庭では電話回線を用いた、かなり遅い通信環境が一般的でした。やがて高速回線になり、携帯電話の普及、スマホの普及、モバイル高速通信環境もかなり進みました。Webの情報も文字中心の表現から、画像そして、動画を扱うサイトが増えました。タブレットやスマホなど様々な表示デバイスの登場により、デバイスによって自動的に見やすい配置で表示するサイトが一般的になりました。JavaScript、XML,Ajax、jQueryなどのソフトウェアの発展がありました。通信速度やコンピュータの性能向上によって、表現の幅が急速に広がっている分野だといえます。

代表的なWEBデザイナーに中村勇吾氏がいます。中村氏の作品はいずれも既存の枠にとらわれず、自由な発想と時代の先を行く技術が基盤にあります。新しい技術は、何が出来て何ができないのか。これまでの表現にはどのようなものがあり、どのような変遷を経てきたのか。どこかの誰かがすでにやったと、指摘されないように、その分野について、詳しく知る必要があります。

我々は、技術屋ではなく表現屋です。基盤技術を生み出すことはしませんが、技術を知り、自分の表現の必要に応じて組み合わせて使いこなせることが大切です。

新しい技術を使いこなすことは、とても大変です。大変ですが、それが出来れば、誰もできなかったような表現に一番乗りできます。時が経ち、誰もが普通に使う頃には、ありふれた表現に見えてしまうでしょう。様々な実験的な表現がやりつくされてしまう前に、早く情報にたどり着いて遊びつくす。それぐらいのスピード感が必要な時代です。

新しい情報にたどり着くために、我々の分野では、往々にして、コーディングと英語の能力が必要になります。新しいということは、市販のソフトウェアでは実現していないことなので、ゼロから作る必要があるからです。それを利用するには、大なり小なり、コーディングの理解が必要です。そして、それを使う方法はたいてい英語で書かれています。誰かが日本語の解説ページを作るのを待っているのでは、遅いのです。

さんざん技術の話をしておいてなんですが、横井軍平氏の「枯れた技術の水平思考」も忘れてはならない言葉です。

2000年頃の話です。当時の研究室に筋電計がやってきました。医療用の装置でしたのでとても高価です。その５年後、新しい筋電計がやってきて、プログラムによって、リアルタイムに筋電位を取得できるようになり、表現に取り入れることが可能になりました。しかし、計測部位を増やすには、追加購入するしかなく、まだまだ高価な品でした。その５年後、材料を安価に抑え、計測部位を増やすために、自作を始めましたが、大変すぎました。その５年後、筋電センサは、5000円で手に入るようになりました。つまり技術が枯れ、誰もが安価に使える時代が来ました。

こうなると「技術を何に使うか」がとても重要になり発想力や創造力が問われます。これらの力は、豊富な知識に支えられたひらめき力です。先人らの多くの取り組みの知見を踏まえたうえで、新しい発想を行う。これが、車輪の再発明にならない、研究へと繋がると思います。

■デザイン学部　人間空間デザインコース

建築や都市空間は、脈々と続く時間の中で様々な時代背景・思惑の上に形作られていますが、そこに長く暮らしたりすると、それを当たり前の存在として捉えてしまいがちです。これを客観的に対象として見る、それが空間デザインの第一歩です。まずは現状把握、そして何が課題であるのか見極め、その課題に対しいかなる空間操作をすべきなのか、手法の解明（研究）、あるいは具体的な空間提案（設計）へと続くわけです。一方で、我々は同じ人間です。ある課題に対する解決策や案は、すでに先人によって研究・設計され、あるレベルまで明らかにされていることが往往にしてあります。それを知らず、一から課題に取り組むことがいかに無謀であるかは言うまでもありません。

また、既往研究を把握することの意義は、それだけではありません。まず時代を超えて自分と問題意識を共有する先人がいたことに感動し、先人がその問題にどう立ち向かってきたのか方法を知り、どこまで達して何が課題として残ったのか当時の限界を知ることでもあります。今を生きる自分が、先人からのバトンを引き継ぎ、当時の限界を超え未来にむけて新たな道を一歩でも切り開く、この知のバトンを引き継ぐこと（＝既往研究の把握）が非常に重要なわけです。生活様式が変化し様々な問題が存在する社会で、建築・都市空間をいかに計画・設計していくべきか、まずはあなたなりの視点で文献検索し、テーマを見つけてもらいたいと思います。

■看護学部　基礎看護学領域

基礎看護学領域は、専門領域の基盤となる領域です。看護の本質を探求するために、理論の開発、問題解決手法、看護実践能力を高めるための教育方法、看護技術の検証、具体的な看護実践方法の開発など、様々な研究が行われています。

その中で、医療安全に向けた看護技術に関する研究を例に説明したいと思います。文献を探そうとすると、膨大な数の研究に直面します。例えば、医中誌Webで、医療安全と検索すると約４万５千件、看護技術と検索すると約３万３千件が該当します。手がかりなしでは目当ての論文にたどり着くことができません。その多数の文献には、様々な種類の文献がありますので、自分が何を知りたいのかを考えながら、文献を探していきます。文献の種類には原著論文、研究報告、資料、実践報告、総説、特集などがありますので、それぞれの特徴を理解することが必要になります。新規性、独自性があり、論理的に明確に述べられている研究を探したいときには原著論文を探します。最新の臨床研究など、なるべく新しい情報を得たいときには実践報告を探すこともあります。このように目的に合わせて検索していきます。

また、看護学は学際的視点が求められています。学際的とは、隣接した異なる学問分野間で研究を行うもので、それぞれの専門性を発揮しながら、他分野と連携していくことです。安全に関する研究は、医学、看護学に限ったものではありませんので、社会学、心理学、教育学など、医中誌以外のデータベースで論文を検索することが多々あります。自分の関心ある分野の研究傾向はどうか、自分の発想と類似した研究はあるのか、自分の知りたいことはどこまで明らかになっているのか、テーマが類似した研究間で明らかになっていないことは何か、などの疑問を解決するために、論文を探していきます。自分の知りたいことに限局してしまわず、掘り下げて考えるための知識を身につけることが大切です。研究計画の段階で、広く深く、より多くの文献に触れることが、研究には必要なことだと思います。

■看護学部　精神看護学領域

精神看護学領域は、こころに関する領域です。

こころとは、どういうものなのでしょうか。私たちが、こころについて話すときには、そのあり方や、動きなどの働きの結果、示されている物をみています。

手軽にこころをみるものとして、血液型占いや、心理ゲームなどがあります。自分の性格や友達の性格について、今まで知らなかった一面をみることができた時には、とても楽しいですよね。

心理ゲームでは、本当にこころを理解できているのでしょうか。心理ゲームは、そこから出た結果について、信頼性、妥当性に欠け、当てにならないと思います。

では、人のこころを理解するためには、どのような方法があるのでしょうか。その一つとして、心理検査があります。心理検査は、何回もの試行が行われ、改良され続け、基準をクリアしたうえで、信頼性、妥当性が保証されています。そのため、カウンセリングや、臨床的診断、職業適性診断、研究等、多岐に渡り用いられています。このように信頼性、妥当性が保証された心理検査ですが、それを行っただけでは、自分のこころや他人のこころを全て知ることができるのかというと、そうではありません。

人のこころを知り、理解するためには、個人の様々な情報や会話などの言語的コミュニケーションや、行動、様子、表情、しぐさ、視線、声などの非言語コミュニケーションなど、様々な視点からみていかなくてはなりません。心理検査を行っただけで、自分や他の人を理解することができたと思うことは、大変危険なことであり、誤解や偏見を助長することにもつながりかねません。

心理学の歴史をみてみると、1897年に、心理学の父といわれる、ヴント（Wundt.M）がドイツのライプチヒ大学に、心理学の実験室を作り、研究を開始したことを始まりとして、盛んに心理学研究が行われました。

この１００年の間に、多くの研究家が、様々な実験や努力をしてきましたが、まだまだ、解明されていないことが多くあります。今後もまだまだ解明されていないところを明らかにしていかなくてはなりません。

人のこころを解明するための難しさは、きわめて無数の多面性をもつため、言葉には言い尽くすことができないのです。そのため、一つの状態としての人のこころだけを対象とするのではなく、そのこころがどのように、発達をして変化していくかについてみていくことが大切です。

そのためには、人のこころについての無数の多面性を考慮し、論文検索を行い、多くの研究に触れて人のこころを理解するための可能性を追求していくことが大切だと思います。

最後に、心理ゲームの結果で落ち込むことなく、みなさんが、「こころについての可能性は何か」について、探求してもらいたいと思います。

芸術の森キャンパス・ライブラリー
札幌芸術の森美術館連動企画展示

札幌芸術の森美術館『新海誠展ー「ほしのこえ」から「君の名は。」までー』連動企画展示『アニメーションの世界』

企画展示期間：2018年1月15日（月）～ 2月23日（金）

展示風景

札幌市立大学附属図書館芸術の森キャンパス・ライブラリーでは、地域連携事業の一環として隣接する札幌芸術の森美術館の展覧会と連動した企画展示『アニメーションの世界』を、図書館資料を公開することで本学学生だけではなく、一般の方にも芸術の森キャンパス・ライブラリーに来館する機会をつくることを目的として行いました。

本学企画展示と連動した展覧会『新海誠展ー「ほしのこえ」から「君の名は。」までー』は札幌芸術の森美術館において、1月3日から2月25日まで開催され、新海誠監督が個人で制作した短編作品「ほしのこえ」から最新作「君の名は。」までの絵コンテ、設定、作画、美術、映像などをはじめとした資料展示が行われていました。

芸術の森キャンパス・ライブラリー企画展示は、新海誠監督作品を作る際影響を受けたという作品・作家等の資料、新海誠監督のインタビューなどが掲載された雑誌、作品を制作するときに使用したとされているパソコンソフトの技術本（Photoshop/After Effects/3DCG dsmax）、その他アニメーション関連として当館所蔵の広範囲（基礎知識資料 / 批評書 / 絵コンテ集・作品集等）な資料約143種を1階に展示しました。広報については、本学学内・札幌芸術の森美術館・札幌市近郊北海道大学図書館協議会加入館等へポスター・チラシを配布の他、本学附属図書館ホームページへの掲載を行いました。

企画展用ポスター兼チラシ、展示資料のポップ作成については、前回迄の企画展同様、司書だけではなく図書館アルバイトの本学芸術の森キャンパス学生の協力を得て作成しました。展示は司書が新海誠監督作品でみられる色をイメージして色味を統一、ポップや展示については新海誠監督作品で登場するメールや手紙に着目し、手紙の形のポップ等の形を作成、連動企画展テーマに合う展示になるよう心掛けました。

企画展示期間中は書類確認等の入館制限を設けず一般市民も自由に入館できることとしました。今回のアニメーションに関する企画展示は北海道の厳寒期に開催されましたが、札幌芸術の森美術館来場者で当館の企画展示チラシをみられた一般の方が来館されるなど、新海誠監督の人気の高さが感じられました。また、来館された方の年齢層は幅広く、展示エリアでは足を止められ展示資料をじっくり読まれる姿もみられました。

今回の企画展示を通して、図書館の配架場所ではジャンルが異なるため違う棚に配架されている資料を、テーマで一箇所にまとめて展示したことにより、本来の配架場所でみる時とは異なる印象や色々な資料があることを知っていただけるきっかけになったのではないかと感じております。今後も魅力ある図書館づくりを心掛けてまいりたいと思います。

（芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 上田）

附属図書館 貸出・視聴ランキング

集計期間：2017/10/1～2018/9/30

芸術の森

図書貸出ランキング

No.1	なるほどデザイン：目で見て楽しむデザインの本。 筒井美希著/エムディエヌコーポレーション/2015 芸術の森 2F 一般図書 021.4/Tsu
No.2	幻獣デザインのための動物解剖学：絶滅種・恐竜を含むあらゆる動物の骨格と筋肉 テリル・ウィットラッチ著/大久保ゆう訳/マール社/2015 芸術の森 2F 一般図書 726.507/Whi
No.3	絵はすぐに上手くならない：デッサン・トレーニングの思考法 成冨ミヲリ著/彩流社/2015 芸術の森 2F 一般図書 725/Nar
No.4	「なるほど!」とわかるマンガはじめての心理学 西東社/2014 芸術の森 2F 一般図書 140.4/Yuk
No.5	「なるほど!」とわかるマンガはじめての他人の心理学 ゆうきゆう監修/西東社/2015 芸術の森 2F 一般図書 140.4/Yuk
No.6	配色デザイン見本帳：配色の基礎と考え方が学べるガイドブック 伊達千代著/エムディエヌコーポレーション/2014 芸術の森 2F 一般図書 757.3/Dat
No.7	住まいの解剖図鑑：心地よい住宅を設計する仕組み 増田奏著/エクスナレッジ/2009 芸術の森 2F 一般図書527.1/Mas
No.8	ゴールデンカムイ 1 (ヤングジャンプ・コミックス) 野田サトル著/集英社/2015 芸術の森 2F 一般図書 726.1/Nod/1
No.9	世界一わかりやすい3ds Max操作と3DCG制作の教科書 奥村優子,石田龍樹著/技術評論社/2016 芸術の森 2F 一般図書 007.642/Oku
No.10	コンビニ人間 村田沙耶香/文藝春秋/2016 芸術の森 2F 一般図書 913.6/Mur

総　評

デザイン関連の実用書に加え、漫画作品が複数ランクイン。今年度よりアニメ放送が始まった「ゴールデンカムイ」は、物語の舞台が北海道であることから、道内で関連イベントが開催されるなど注目が集まっており、本学でも人気が上昇中です。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 若木)

AV視聴ランキング

No.1	新・映像の世紀 Blu-ray Box (NHKスペシャル) NHKエンタープライズ/2016 芸術の森 1F AV 209.7/Sin
No.2	AKIRA 大友克洋原作・監督/大友克洋, 橋本以蔵脚本/バンダイビジュアル/2009 芸術の森 1F AV 778/AKI
No.3	風の谷のナウシカ (ジブリがいっぱいCOLLECTION) 宮崎駿原作・脚本・監督/高畑勲プロデューサー/プエナビスタホームエンターテイメント (発売)/2003 芸術の森 1F AV 778.77/Ghi
No.4	言の葉の庭 新海誠監督・原作・脚本/東宝/コミックス・ウェーブ・フィルム (発売)/2013 芸術の森 1F AV 778.77/Kot
No.5	バケモノの子 細田守監督/バップ/2015 芸術の森 1F AV 787.77/Bak
No.6	恋するマドリ 大九明子監督・脚本/筧昌也原案/バンダイビジュアル/2008 芸術の森 1F AV 778/Koi
No.7	七人の侍 (DVD Toho. Akira Kurosawa the masterworks) 黒澤明監督/東宝 (発売)/2002 芸術の森 1F AV 778/Kur
No.8	Eternity and a day written and directed by Theo Angelopoulos/ 紀伊國屋書店 [distributor]/2012 芸術の森 1F AV 778/Mia
No.9	花とアリス 岩井俊二監督・脚本・音楽/ノーマンズ・ノーズ(企画・発売)/2004 芸術の森 1F AV 778/Han
No.10	アニー・ホール ウディ・アレン監督・脚本/マーシャル・ブリックマン共同脚本/ ソニー ピクチャーズ エンタテインメント(発売)/2002 芸術の森 1F AV 778/ANN

総　評

今年1月に札幌芸術の森美術館にて展覧会が開催された、新海誠監督の作品が3年連続ランクイン。ほかにも、上位には「AKIRA」、「ナウシカ」、「バケモノの子」と、名作アニメーション作品が並び、アニメ人気の高さがうかがえる結果となりました。(芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 若木)

桑園

図書貸出ランキング

No.1	ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 第2版 佐世正勝, 石村由利子編/医学書院/2012 桑園 シラバス図書 492.924/Sas
No.2	病気がみえる 7 脳・神経 医療情報科学研究所編/Medic Media/2011 桑園 一般図書 492/Iry/7
No.3	ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント：同一事例による比較 第3版 渡邊トシ子編集/ヌーヴェルヒロカワ/2011 桑園 一般図書 492.913/Wat
No.4	質的研究実践ノート：研究プロセスを進めるclueとポイント 萱間真美著/医学書院/2007 桑園 シラバス図書 492.907/Kay
No.5	文献レビューのきほん：看護研究・看護実践の質を高める 大木秀一著/医歯薬出版/2013 桑園 一般図書 492.907/Oki
No.6	病気がみえる 9 婦人科・乳腺外科　第2版 医療情報科学研究所編/Medic Media/2009 桑園 一般図書 492/Iry/9
No.7	病気がみえる 10 産科　第3版 医療情報科学研究所編/Medic Media/2013 桑園 一般図書 492/Iry/10
No.8	発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第2版 石黒彩子, 浅野みどり編/医学書院/2012 桑園 一般図書 492.925/Hat
No.9	質的研究への挑戦 第2版 舟島なをみ著/医学書院/2007 桑園 一般図書 492.907/Fun
No.10	マタニティサイクル：母と子そして家族へのよりよい看護実践 大平光子 [ほか] 編/南江堂/2012 桑園 シラバス図書 492.924/Bos/2

総　評

昨年に引き続き「病気がみえる」シリーズがランキングの半数近くを占め、人気の高さがうかがえます。対して昨年には見られなかった研究方法に関する資料が多数ランクインしています。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 泉)

AV視聴ランキング

No.1	入院時の健康診査 (看護教育シリーズ. 目で見る母性看護:vol.4/分娩経過のアセスメントと看護) 医学映像教育センター/2007 桑園 AV 492.924/Med/4
No.2	家庭訪問の展開とコミュニケーション術 (Maruzen audiovisual library: 地域看護活動とヘルスプロモーション:第2巻, 地域看護活動とヘルスプロモーション:第2巻) 丸善/2007 桑園 AV 492.99/Chi/2
No.3	ケアニン：あなたでよかった Library Contents Service/2017 桑園 AV 778/Kea
No.4	ユマニチュード：優しさを伝えるケア技術 IGM Japon/医学書院/2014 桑園 AV 369.26/Hum
No.5	制度・理論を生かした地域看護活動 (Media park video library. 新しい地域看護の展開:第1巻) 新宿スタジオ/[1999] 桑園 AV 492.99/Ata/1
No.6	未来を拓く地域看護の実際 (Media park video library. 新しい地域看護の展開:第2巻) 新宿スタジオ/[1999] 桑園 AV 492.99/Ata/2
No.7	分娩進行の観察とサポーティブケア (看護教育シリーズ. 目で見る母性看護:vol.5/分娩経過のアセスメントと看護) 医学映像教育センター/2007 桑園 AV 492.924/Med/5
No.8	適切な看護援助・生活援助ができていますか? (看護教育シリーズ. 認知症高齢者の看護：パーソン・センタード・ケアの視点：高齢者施設編:v.1) 医学映像教育センター/2016 桑園 AV 492.929/Nin/1
No.9	本人の意思やニーズをケアに反映していますか? (看護教育シリーズ. 認知症高齢者の看護：パーソン・センタード・ケアの視点：高齢者施設編:v.2) 医学映像教育センター/2017 桑園 AV 492.929/Nin/2
No.10	高齢者ケア施設での重度化対応ケア&看取りケアマニュアル 日総研出版/2011 桑園 AV 492.929/Kou

総　評

地域看護・老年看護が全体を占めており、「ユマニチュード ： 優しさを伝えるケア技術」は、順位を下げながらも2年連続ランクインしました。また、「ケアニン ： あなたでよかった」は介護福祉士の青年が認知症の高齢者との関りを通して成長していく姿を描いた映画作品です。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 石井)